

内郷村報



朝海 朝日影昇るがまに波なきて大海原は静けかりけり 民 蕙

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各階級の活動振興を鼓舞し、併せて其協調を計り、總親和總勢力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民等導に當る。

社會事業と 我共濟會

大内民 惠

本紙前號及本號に於て、それ〴〵報告してある如く、本村の共済事業即ち社會事業も、村當局、村議區長、共済委員諸氏の、熱烈なる斡旋奉仕と、一般村民諸氏の、高潔なる同情奉仕とによつて、匡救事業に將た救済事業に、殆ど他に類例を見ざる好成績を挙げつゝある事は、大に感謝し大に欣快とする處である。されど未だ多数の村民各位中には、

人々の中にも、往々見當りがひの解釋をし、如何はしき理屈をいつて居る向も、少くないと思はるゝので、こゝに其大要を述べて参考に供したいと思ふ。かく申すと記者は、一かどの社會事業家であり、斯道の權威でもあるかの様に見えるが、決してそんな譯ではなく、たゞ淺薄な研究の一端を開陳するに過ぎないのであるから、誤謬の點は偏に御批教を願ひたいのである。先づ第一の誤解は、從來の「慈善事業」と、社會事業乃至共済事業とが、同一視されて居る事である。こ

ゝに食ふに困る人とか、病氣でも醫者にもかゝれず苦しんで居る人があらはれたとすると、それに對して同情心深い、裕福な人が現はれて、之は可愛そうであるなさけは人の爲ならず、善い事をすればよい報いがあり、やがては極樂なり天國なりに往生出来る、積善の勸題 朝海

東京 遠藤 二郎
島になりゆく朝ぼらけかな
長閑なる朝日の影のさしそへて
光りあまれば四方の海つら
平 眞木 錦吉
わたの原のぼる旭のかゞやきて
花さきまつ、岸のしら波
内郷 樋口 平久
満洲のやみの高波み光りに
しづまりあけてつゞく海岸
磯岩を洗ふてたぎつ波しぶき
海くれないに朝日かゞよふ
静けくも明け行く海の波をなみ
樺の音さへも長閑けかりけり
同 大内 弘喜

家には餘慶ありだ、一つは子孫の爲にも之を救つてやらうといふ様な行き方を、從來慈善と稱せられたものであつて、結局は人の爲にするのか、我が爲にするのか、わからなくなつて來るのである。

社會事業は、之と趣を異にして、我々人間が共

同生活をして居る社會は、一つの有機体であつて、お互が密接な關係を有し、よい事も悪い事も、其影響は皆我々社會人一同がうけるのである。例へば汽車汽船の電信電話飛行機ラヂオなどを發明してくれた人があつた爲に、我々は其發明に何等關係をもつて居らないのに係らず、等しく其恩恵を蒙る事が出来、又我々に衣食住の資料を供給してくれる人々がある爲に、よしんば我々が直接衣食住の資料産出に關係はなくとも、其恩恵によつて、何ん自由なく生活し得らるゝのである。之と同時に、天災があらつたり、悪疫が流行したりする原因から不景氣になつたり、失業者が出来たり、よくない人が現れて社會の秩序を亂したりするに、我々はさうした事に、直接何等關係はして居ないでも、御同様が一列に、其影響をうけて、それ〴〵困らされて來るのである。之を要するに、此社會なるものは、御同様お互様が持つてあるのである。

相 持ちて居る者、此社會に生活して居る者は、この社會をして、出来る丈立派なよい社會として、お互がよ

謹賀新年

昭和八年一月一日

東天紅
一家揃ふて
初詣
(弘喜)
卷 卷
甲斐根 丑太郎

りよき幸福を得らるゝ様、又苦しんで居る人、困つて居る人を出すと云ふ事は、深く其原因を研究して見る。故にかういふ人々を御世話するといふ事も亦皆我々社會人の責任であるといふ様に考へるのが、社會事業乃至共済事業の精神なのである。もう一つ例を擧げて説明すれば、假りに吾人

の左の手に腫物が出来て、右の手で腫物を搾り去つたとする場合、從來の慈善事業の精神からいへば、左の手は心得が悪いからかういふ腫物が出来たのだ、それにしても可愛うだから右の手が、恩恵的に其腫をとつてやつたのであるといふ様に考へるのである。然

(以下二面へつづく)

其收穫を折半し、爭議なきは殆んどなく、あつた所で深刻でないやうです。但其中間に含意を稱する者が介在して、仲々暴利を貪る者も在り、米の方は水利事業を盛

又ニシクや葱唐辛子入白米の漬物もいたしましたが、之はなかつたです。今朝は四時半起床、朝食をすまひ、六時半新里に向つて出發致しましたが、夜

開いたが、昭和三年先づ十五名で岩まじりの此土地を、シヤベルで起して豆などを蒔き、時には又支那人に使はれて家の建造請負もしたと云ふ事。今では百戸で五百町

で高梁や黍の馳走に預りました。宿泊所は兵營で、今しも警備常番四名が剣付鐵砲で歩いて居ます。若し村報に餘りありませんならば小學時代の恩師阿部毎吉先生にもお送り下さる様お願ひ致します。

奉下 後七時半。今朝北大

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

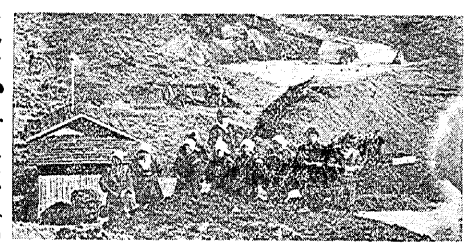
(一面よりつづく)
るに社會事業の精神からいへば、左の手に腫物が出来たのは、敢て左の手が悪い為ばかりでなく、全身に弱味があり、缺陷があつた為なのである。捨て、おけば左の手は勿論、全身が其影響をうけて、或は一命を失ふかも知れない、そこで何を措いても、右の手を煩はして其過根を断ち、健全な身体にしなればならぬといふ様に考へるのである。それで今日の學者は、社會事業の

貴社の隆盛を祈る
内郷 江連 半仙
初雞の羽はきたきて張る
高音かな

本質を、社會人が社會の進歩發達の爲になす事業であつて、下層の生活をして居る人々の、生活苦を救済し、其福利を増進し、更に他の人々との調和を圖る事に依つて、社會の進歩發達に貢献する仕事であると説明して居る。尙之を**解**釋して、社會事業とは中流以下即ち標準以下の生活をして居る人々を、標準生活は勿論、それ以上の生活の出来る様、又は標準生活者をして、それ以下

の生活に落ち込めぬ様に、御世話をし、斡旋をし、救済すると同時に、各階級の調和(例へば勞資の協調内鮮人の融和等)を圖るのであるといつて居るのである。畢竟するに我共濟會もかうした社會事業を行ふ事を目的とし、理想として、會費を徵集し、寄附を仰いで居る

の生活に落ち込めぬ様に、御世話をし、斡旋をし、救済すると同時に、各階級の調和(例へば勞資の協調内鮮人の融和等)を圖るのであるといつて居るのである。畢竟するに我共濟會もかうした社會事業を行ふ事を目的とし、理想として、會費を徵集し、寄附を仰いで居る



事工修改路道宮

である。人里はなれた山の中へでも引つ込んで、仙人生活でもすべきである。さすれば、仙人と雖も、木の實草の葉によつて生活すると思へば、矢張り我國土の恩恵を蒙らざるを得ざる事を考へる時に、此地上にも生活し得ざる事になり、結局此世の中に生活し得る資格がなくなる譯である。此點を大に反省考慮して戴きたいと思ふのである。同時に苟くも本村に一戸を構へ、生業を有して居らる、人々は一日一箸の御飯、一年一升以上の米を喜捨せられて、此の

既報の通り本村の匡救事業は、當局の熱心な活躍によつて、日を遂ふて進捗しつつあるが、今其概況を記さん

白水川改修は十二月五日に着手し、加藤丈夫、山崎喜一、宮本鐵太郎、久野喜平の四委員、廣瀬貞、沼田安榮の二書記監督の下に、毎日六十名内外の夫夫出勤し、既に工程の百分の四十に達したる由。

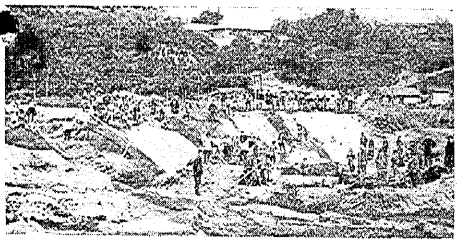
白水道路は同月八日に着手し、小松定次郎、馬目子之松、井出金次郎の三委員

匡救事業の進捗

意義ある事業に、協力奉仕して戴きたいものである。又不幸にして、其賑恤救済をうける人々も、以上の理由を体得して、精勵一番標準以上の生活者になる様努力して戴きたいと思ふのである。尙序であるから一言しておくが、我共濟會に向つて被救済者の氏名を公表せよなどといふ人々があるが、此は事業の性質上、絶対に發表しない事にしてある。もし強て見たいといふ希望を有せらる、方は、詳細な記録をつくつて、役場にも御覽を願ひたいと思ふのである。

岡文雄書記監督の下に、毎日六十名内外の夫夫出勤し、既に工程の百分の四十に達したる由。

白水道路は同月八日に着手し、小松定次郎、馬目子之松、井出金次郎の三委員



事工修改川水白

日に着手し、生田常弘、高原重吉、志賀留吉の三委員藤田友次郎書記の監督の下に、毎日六十名内外の夫夫出勤して既に工程の百分の三十に達したる由。尙各區長各共濟委員は、失業者の採解備に寧日なく斡旋し、之れが爲に毎日二百人内外の人々が、其恩恵を蒙つて居る次第である。

共濟會の活動
共濟會に於ては既報の通り、同情週間にそれら印刷物を配布し、會費の徵集寄附の募集を開始し、相當の成績を挙げ、舊年末に於て救恤を行ふ事になつた其詳細は次號に報告する。

同情者續出
前項記載の活動に對して同情者續出し、白米五俵島田兼吉氏、金拾圓つ、馬目太平治沼田濱之助の兩氏、白米一俵四家又一氏等を始め多數申込があつた。

臨時村會
十二月十九日開會。風水害罹災者救済の爲政府米拂下をなす件。協議決定。

本紙贊助金寄附芳名
金五圓 韓太 渡部孝一
金貳圓 内郷 某氏
金貳圓 内郷 石田秀二

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民惠 著
服部宇之吉

我が國教育學界の權威
京大教授小西重直博士
書を寄せて曰く、多年御體験下實地ノ御試練ニ基テ直學愛國ノ大精神ヲ拜味仕テ不思感激ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
東京九ノ内昭和ビル

磐炭社宅世話役の再送

磐炭従業員宅世話役六名は、舊臘満期となり、健康、災害防止、互助共濟、

佐藤 彦治 平子 義茂
町田 區
○星野金三郎 芳賀 光榮
○富森 一繁 菅野作次郎

石井 三郎 羽田 勝市
○國分 春吉 菅野 重吉
○筒井 三郎 以上

賀秀夫、副多賀喜一、會計
中島忠勝、幹事長佐藤壽男
書記小林次郎、幹事大賀武
添田正滿須田辰夫柴田清人
顧問上原功大内民惠

取次所 内郷村報社

標準生活は勿論、それ以上の生活の出来る様、又は標準生活者をして、それ以下

知事でない人であり、社会人ではなく、社会でないの

白水道路は同月八日に着手し、小松定次郎、馬目子、井出金次郎の三委員

道路は同月十日

金五圓 渡部孝一
金貳圓 内郷 某氏
金貳圓 内郷 石田秀二

教育制度改革概論

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威 京大教授小西重直博士 書を寄せて曰く、多年の御経験と實地ノ御試練ニ基キ眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社 東京丸の内昭和ビル 取次所 内郷村報社

磐炭社宅世話役の再送

磐炭従業員社宅世話役六十三名は、舊臘満期となりたるを以て、十二月十八日集會所に於て、其解任表彰式を舉行した。濱崎事務部長、所長代理として、表彰状並に紀念品銀時計を授與して訓辭をなし、小島勞務課長の挨拶、來賓代表大内

新年祝賀式

- 一、役場。午前八時。
- 二、各學校。同九時。
- 三、磐炭礦業所。同十時。
- 四、同従業員。
- イ内郷山神社。同九時。
- ロ高坂山神社。同八時。
- ハ綴山神社。同八時。
- ニ平山神社。同八時。
- 五、同役付諸員。
- 六、七年會。同十一時。
- 七、七年會。同七時。

答 辭

私達六十三名の社宅世話役は、昨年十二月任命をうけまして以來社運の隆盛と従業員三千余人の幸福ならんことを憶ひつゝ、茲に一ケ年を過ぎましたが、微力にして何等見るべき仕事もなせず、任期を終る事は、誠に耻しい次第であります。然るに本日は、會社幹部多数御列席の上、盛大なる表彰式をあげられ、礦業所長殿その他來賓の方々より、いろいろ御懇篤なる御訓示と御挨拶を戴き身に餘る光榮を存じます。解任後と雖も、誠心誠意會社の事業に貢獻し、従業員一般の幸福の爲に、努力する考でありますから、今後とも御見捨てなく、御指導と御鞭撻を御願する次第であります。甚だ簡単であります。社宅世話役一同を代表致しまして、御参列の皆様にお厚く御禮を申し上げます。 昭和七年十二月十八日

- 佐藤 彦治 平子 義茂
- 町田 區
- 星野金三郎 芳賀 光榮
- 富森 一繁 菅野作次郎
- 鈴木 明 本田 繁三
- 宮澤 區
- 山崎留之助 吉田勇喜雄
- 小山田 武 安濟 庄治
- 鈴木重左門 小野 雄藏
- 池田 重 橋本 照彌
- 佐藤留五郎 八角喜代治
- 御殿 區
- 中村末太郎 高橋仁太郎
- 坂本 幸太 星 茂
- 片波見捨男 小平 寅次
- 宍戸 榮一 千葉 清夫
- 工藤 常治 仁田 宇門
- 樋口 忠雄 小松 利保
- 大谷 義明 実戸 信義
- 後藤 保 齋藤 安藏
- 安藤辰五郎 武藤 忠吾
- 濱井場 區
- 木村 義松 佐藤 隆
- 鈴木鶴五郎 濟邊淺之助
- 伊藤 松市 渡邊 光

大内家政塾創開

- 一、昭和七年十二月十八日七年會別館に開塾したり目下在塾生十名。
- 二、本村居住の職業婦人は何人も入塾を許す。
- 三、塾生は天法人則を遵奉し日本婦人たる本分を盡すべき義務を負ふものとす。
- 四、束修及授業料を徴集せず。
- 五、塾長、大内民恵。講師、大内きみ子 大内弘喜 大内多喜子 卷幡光子 國分久。
- 六、學科は婦道、裁縫を主とし、希望者には國語、珠算、家事、各種手藝、割烹、生花等をも教授す。
- 七、授業時間は夜間及公休日とす。但し講師の都合により隨時休業する事あるべし。
- 八、教材は各自任意とす。但し場合により講師より指定することあるべし。
- 九、入塾希望者は隨時申込むべし。
- 十、入塾を許されたる者は、本塾備付の宣誓書に署名捺印するものとす。
- 十一、本塾則違反者に對しては、極力訓戒を與へ、若し其効見えざる時は退塾せしむ。以上

小島勞務課長 一月四日か 第三週間の豫定にて、筑豊炭礦を視察のため、舊臘三十一日出發。

愛國誌友團 支部辯論會は去る十一月二十七日集會所に發會式舉行。部長志勢に開始、磐青之に奉仕。

磐炭夜警 十二月十日 五日全山一勢に開始、磐青之に奉仕。

磐青平太郎 支部舊臘第七回總會開會三十名出席 役員改選の結果、支部長星秋吉、副支部長兼會計半澤貞輔、幹事長志賀秀夫の諸君就任す。

賀秀夫、副多賀喜一、會計中島忠勝、幹事長佐藤壽男 書記小林次郎、幹事大賀武添田正滿須田辰夫柴田清人 顧問井上惠助大内民恵大内弘喜。

鮮滿視察日信 (其二)

日本國民高等學校生徒

群山

發信續き、錦江の項。(前號錦江は錦江の誤植)米の輸移高年額百五十万石乃至二百萬石で朝鮮第一。人口鮮人約一萬七千、内地人約九千。我國高麗關係深き山形講習所出身者を不二興業會社千拓部不二農村に訪問、先づ集會所で種々の款待を受け、新山形村に行く。野菜等も非常によい物が出来、水稻は仲々光澤のある旨いものでした。其苦心談を聞きたいと思つて、先生の方から頼んだのですが、朝鮮移民の第一人者たる十家族の人であるに、よう語つてはくれませんでした。二十六町の堤防を二つも築いたのを見事な事によつて、如何に涙ぐましい奮闘をしたかが、想像されたのであります。因みに此等の十家族は、大正十四年に先鞭をつけた譯で今では福島縣人も十あるそうですが、訪問出来ませんでした。此邊の鮮人の生活を見るに、其文化の程度は内地よりも五年も十年も後れて居る様です。

京城

二見旅館にて、十二月一日。午前七時無事京城に着きました。驛前の旅館にリユツクサツクを降し、朝鮮宮に参拝し朝食後總督府訪問、農林局戸塚氏の朝鮮農業に関する御話がありました。それによる米粟大豆が主要なもので、其他多種玉蜀黍等も良く出来、内地人は大抵地主で、小作として鮮人を使ひ、小作料は其收穫を折半し、争議などは殆んどなく、あつた所で深刻でないやうです。但其中間に舎首と稱する者が介在して、仲々暴利を貪る者やうです。米の方は水利事業を盛

大内

一 郡 實行して、産米増殖に努め、又畑作物も増産を計劃しつゝ、あるやうです。果樹は相當の出来榮えを見せ、殊に蘋果は良いのが出来、然かも素人栽培が主で、皆成功して居るの事です。蓄産は牛丈で豚、羊等は未だ發達は望まれないの事。養蠶は現在六十萬石(全鮮)之を將來は發達の餘地があるやうです。

末輝里

命剛旅館にて、十二月二日。十月十五分京城發、京元線上鐵原にて金剛電鐵に乗換へ、午後五時二十分當地に着きました。人口は恐らく二千人位ならんと思ふ小村です。明日は新興里農場見學の予定です。今日は殆んど車中許りで、特に記する程の事も御座りません。寒さは期待して居つた程でなく、寧ろ悲觀の体で御座います。

平衡

第一部落山口様方にて、十二月三日。昨夜は温突(オンドル)の御馳走になりました。カ(こま)の氣持になりました。又ニンニクや葱唐辛子入白菜の漬物もいただきましたが、之はなかなか辛かつたです。今朝は四時半起床、朝食をすまひ、六時新興里に向つて出發致しましたが、夜

は未だ明けず星がまた、いて居りました。七時半農場に到着、日の丸の旗を神社の前に掲げて朝の禮拜をいたしました。内地人五戸で百町歩の山や林を管理し、二町一反の畑を耕作して居るやうで、急傾斜の砂礫地を、二頭立の牛働で打起しをするのだやうですが、實にえらい畑です。昭和四年入村して其當時は平康より二十里(電車開通せず)二日掛りで歩いて來たのだやうです。今でも一年を通じて米を常食とせず、粟麥蕎麥大豆黍蜀黍を食へて居るのだやうです。九

北大營

今朝六時十分朝鮮と滿洲の境の鴨綠江を渡りました。新義州あたりから俄關東乗り込み一般乗客の密入を盛んに調べて居り、此處で機等の荷物も大体ではあるが全部調べられ、昨夜高麗門に匪賊三つ現れたとかで、獨立守備隊員と警官百五十名許り乗り込んで荷物を取りました。鳳凰城高麗門あたりではよく出るのだやうです。僕等は氣がつきませんでした。二つばかりの音がして居つたやうです。午後一時頃奉天着、奉天神社、忠靈塔参拜後、二里許り離れたる當北大營に着きました。此處は滿洲事變發端戦場、張作霖張學良全盛時代には、七八千の兵が居つたやうですが、今は我國高麗移民講習所をうけた人々七十七名許りが、五十町歩の練兵場を、トラックターで耕してました。學良も感慨無量な事です。今晩此處で高麗の乗馬を預りました。宿所は兵營で、今しも警備當番四名が劍刺鐵砲で歩いて居ます。奉天にて、十二月六日午後七時半。今朝北大

煤煙歌社

内郷 大竹 秋平 板鼻のすきまを渡る、朝の陽は斜線になつて庭にさしなり 大高 政美 吾かくて過ぎ人命が炭山に朝夕なに炭を掘りつ々 田中 賢介 幼な兒の木履の音のかるがると 石道の明るき一日 朝陽群れつ、ゆけばゆつくりと煙突を見る公休日なり 谷口 四郎 雲降れる頃となりけり今年また父は持病に罹るらんか

京城

四にて、御厄介になつた山口氏に、色々入村當時のお話を聞いたが、昭和三年先づ十五名で岩まじりの此土地を、シヤベルで起して豆などを蒔き、時には又支那人に使はれて家の建造費もしたやうです。今では百戸で五百町

北大營

今朝六時十分朝鮮と滿洲の境の鴨綠江を渡りました。新義州あたりから俄關東乗り込み一般乗客の密入を盛んに調べて居り、此處で機等の荷物も大体ではあるが全部調べられ、昨夜高麗門に匪賊三つ現れたとかで、獨立守備隊員と警官百五十名許り乗り込んで荷物を取りました。鳳凰城高麗門あたりではよく出るのだやうです。僕等は氣がつきませんでした。二つばかりの音がして居つたやうです。午後一時頃奉天着、奉天神社、忠靈塔参拜後、二里許り離れたる當北大營に着きました。此處は滿洲事變發端戦場、張作霖張學良全盛時代には、七八千の兵が居つたやうですが、今は我國高麗移民講習所をうけた人々七十七名許りが、五十町歩の練兵場を、トラックターで耕してました。學良も感慨無量な事です。今晩此處で高麗の乗馬を預りました。宿所は兵營で、今しも警備當番四名が劍刺鐵砲で歩いて居ます。奉天にて、十二月六日午後七時半。今朝北大

内郷村報の 六大使命
一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を統制し、併せて其協同を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共済事業の徹底を期す。

同生活をして居る社會は、一つの有機體であつて、お互に密接な關係を有し、よ

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を發するものなり。